

**多様性と創造的協働に基づくアントレプレナー育成プログラム**  
**(IDEA: Innovation x Diversity x Entrepreneurship Education Alliance)**  
**(実施期間：平成 29 年度～令和 3 年度)**

実施機関：主幹機関—九州大学（総括責任者：高田 仁）

協働機関—奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学、立命館大学

**採択プログラムの概要**

本プログラムは、多様性をモノ・コト・サービスへと結晶化して、価値創造と社会変革を導く「次世代グローバルアントレプレナー」育成を目指す。当該目的に向け、個性あるアントレプレナーシップ教育／イノベーター育成プログラムを実践する九州大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学を中心に、国内外機関の多様な人材育成思想を有機的に融合させ、共創的混ざり合いを同時多発的に創発する「アジア発の次世代グローバルアントレプレナー育成プラットフォーム」を構築する。各大学のEDGE事業を発展・高度化させた先端的プログラムを実施するとともに、九州と関西、さらに海外の学生等が渾然一体となって混ざり、学び合う多層的協働プログラム“Interstate Collaboration Program”及び“Regional Core Program”を展開する。各プログラムはアジア固有のバイタリティと多様性をイノベーションに結実させる創造的協働の可能性を追求し、新たな価値創造と社会変革を導く実践能力構築を基軸に編成する。

**(1) 評価結果**

総合評価	I. 目標達成度	II. 取組状況	III. 計画・改善手法の妥当性	IV. 今後の見通し
<b>A</b>	<b>a</b>	<b>a</b>	<b>s</b>	<b>a</b>

**総合評価：【A】**

アントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとなる取組みであり、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展も期待できる。

**(2) 評価コメント**

主幹機関である九州大学が有するアントレプレナー育成の豊かな知見を、九州の域内に閉じず、関西地域と連携し、ダイバーシティに富んだコンソーシアムとして推進してきた本取り組みは、大変価値があった。各機関が独自の教育プログラムを策定し、コンソーシアム内に展開することでアントレプレナーシップの醸成が図られた他、主幹機関が持つ教育プログラムに協働機関からも安定的に参加する形が効果的に運用されたことは評価できる。特に外部資金導入率は、それぞれの機関の努力によって年度を追うごとに初期目標を大きく上回る成果を挙げ、自立した発展を表しており、さらには卒業生起業家から多額の寄付があったことも特筆できる。

また、九州大学が「起業部」の取り組みにいち早く挑戦し他機関への広がりも生まれた点で評価できるため、起業自体を目的化するのではなく社会変革の駆動力となる人材を育てるという観点で活動を発展させていくことに一層留意し、他機関に波及させていくことを期待している。「アジア発の次世代グローバルアントレプレナー育成プラットフォーム」の土台となるべく、更なる具体的な連携と発展にも期待する。

## I. 目標達成度

受講者総数(4,943名)は、初期目標の2倍を超える大幅な達成である。単純な人数のみならず、その内訳として若手研究者や社会人が多く参画し、他のコンソーシアムからの参加も大勢おり、さらにはアジア 15 カ国からも参加していることは、その背景に立つ関係者の献身的な働きがそれだけ大きかったことを裏付けている。その結果として、多様な価値観が混じり合う人材育成プログラムを実現したことは特長的な成果である。当初の留意事項についても適切に対応している。

Regional Core Program (RCP) と Interstate Collaboration Program (ICP) の取り組みと有機的な連携は大変魅力的で、広域連携を目指す他の機関へ参考になるモデルを確立した。本事業の後半は COVID-19 の影響で当初意図した相互が交わり合うなかでの連携が難しい環境にあったが、各機関が精力的な協力と代替手段によるアイデア抽出によって、遅滞することなく取り組んだことも評価したい。

## II. 取組状況

九州と関西2つの地域エコシステムを繋げ、さらに海外にも広げた運営を行う等、価値創造を可能にするベンチャーエコシステムを形成した。特に、本コンソーシアムに属する四校会議が毎年3～4回開催され、それによる強固な連携によって学生に幅広い機会提供が与えられ、関係者間のアントレプレナー育成に関するノウハウ共有も進む等、相乗的な成果を上げることができたと言える。

企業と大学が連携したワークショップの開催や、産学共同で事業検討を行う取り組みがなされており、医学系に特化したプログラム等ユニークさを併せ持った取り組みも評価できる。

提供プログラムにアジア 15 カ国から参加したという実績に加え、アジア圏以外の国々とも連携してプログラムを開発したことは高く評価できる。本事業終了後も継続し、国内外の双方にさらに広がりを見せることを期待する。

## III. 計画・改善手法の妥当性

外部資金の獲得は、すべての年度で目標達成しているのみならず、毎年度の達成率が大幅に右肩上がりが増えていたことも特筆すべきである。その総額 1.9 億円は他のコンソーシアムと比べても多く、ベンチャーキャピタルや起業家等、外部人材の巻き込みにおいても 363 名と圧倒的であることも高く評価できる。卒業生から 10 年間で総額 3 億円の基金を設立する等、卒業生と一体となった次世代アントレプレナー育成の基盤をつくった点も評価できる。

## IV. 今後の見通し

RCP あるいは ICP として実施してきたプログラムを本事業終了後も継続することを決定しており、また各機関の独自のプログラムも自己財源等によって継続することが可能になっている。

九州大学起業部の活動が、今や全国的な学生の自主活動として広がり影響力をもたらしていることから、先例としての課題の部分も含め、他の機関へ良い波及になることを期待する。

それぞれの機関は、今後より地域に根ざした活動でも展開していくこととなり、本コンソーシアムは九州・沖縄地区と、関西地区に分かれた形で、各拠点都市のプラットフォームに受け継がれる。4機関の強固な連携によって生み出された先進的な取り組みとそのノウハウが各拠点都市でも確実に継承され、裾野拡大に繋がっていくことを期待する。